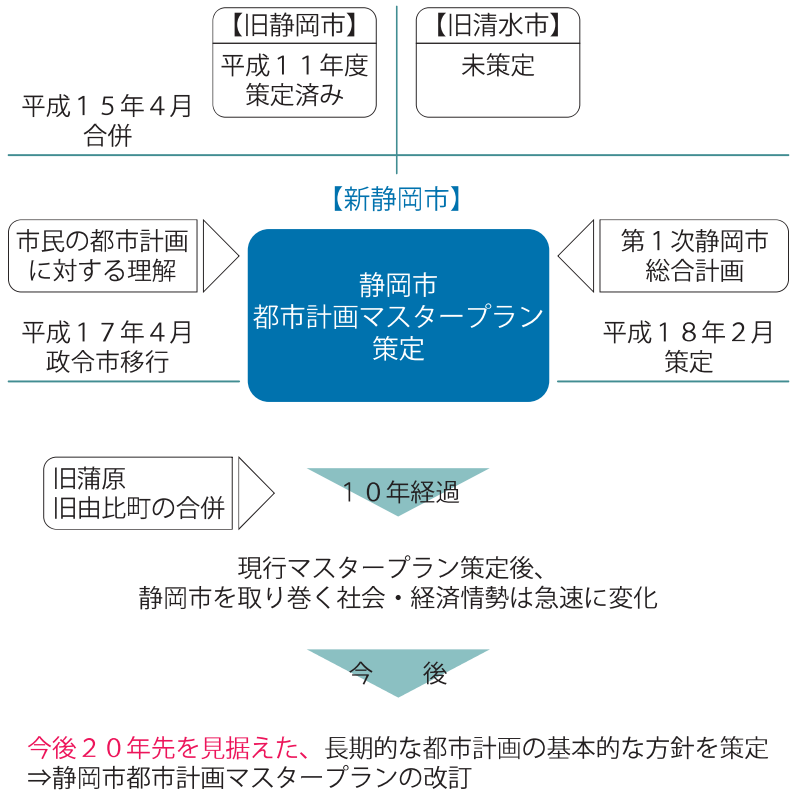


# 都市計画マスタープランの改訂について

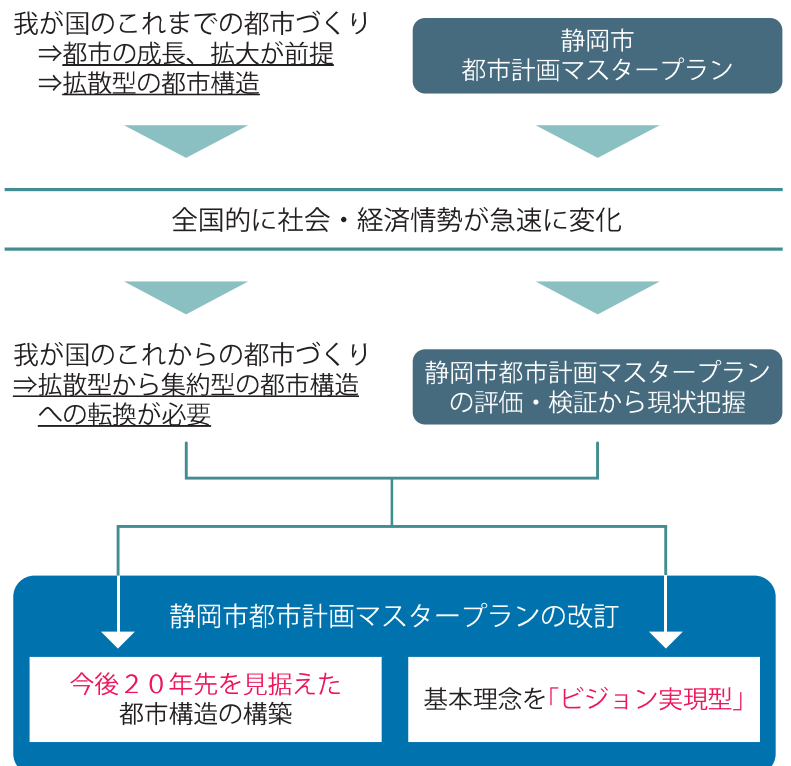
## ⇒ 背景

- 静岡市では、まちづくりの方針を定めた静岡市都市計画マスタープランを平成18年2月に策定し、道路や公園等の都市整備の取組みを進めてきました。
- その後、旧蒲原町・旧由比町との合併、また、現行計画の策定から約10年が経過し、社会・経済情勢をはじめとした市のまちづくりへの環境が大きく変化しています。
- そこで、このような時代の変化に対応し、これからの時代にふさわしい計画とするため、改訂を行います。



## ⇒ 方向性

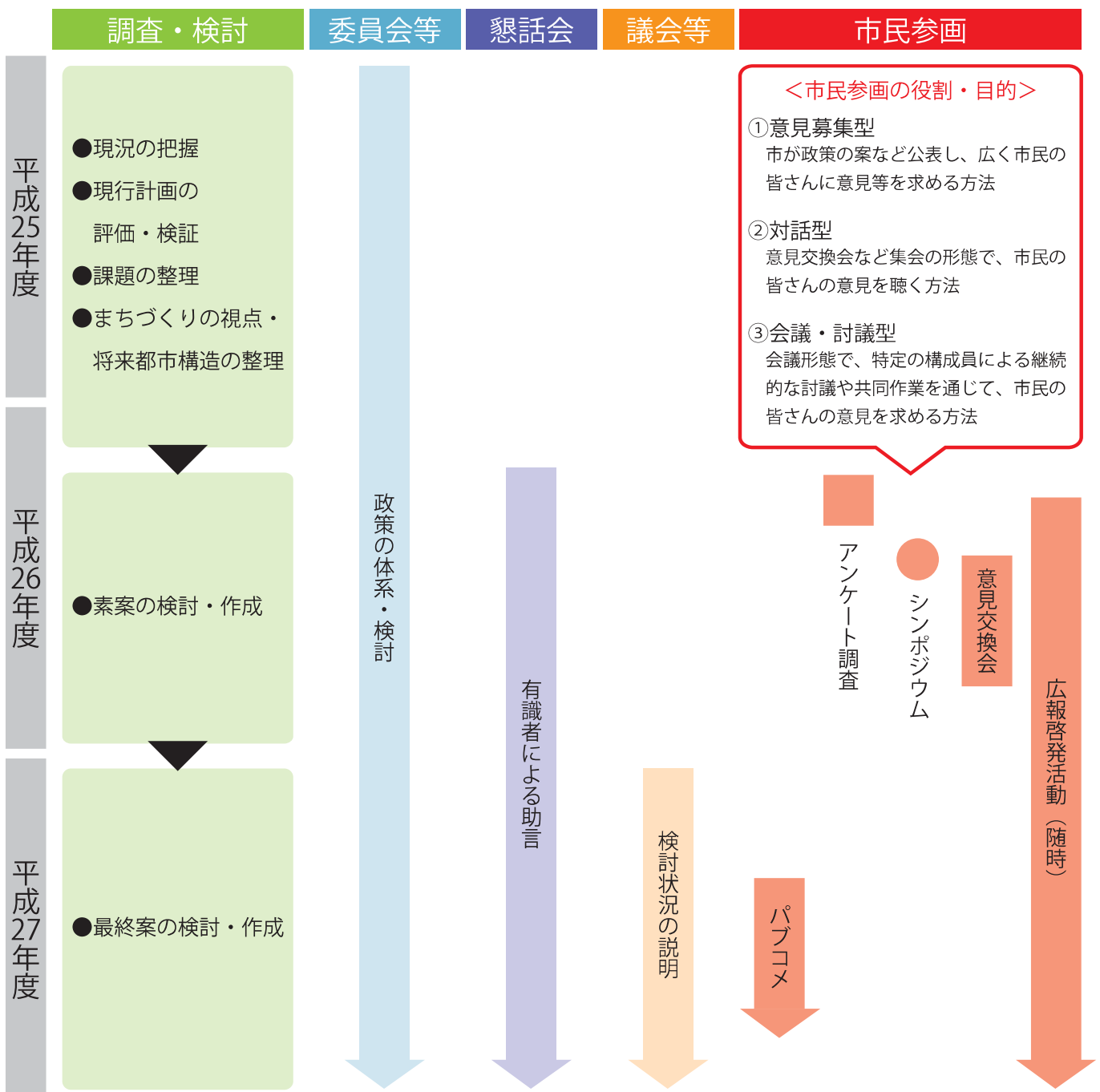
- これまで、郊外に向けて道路や建物をつくり、市街地を拡大してきました。
- しかし、人口減少をはじめ全国的に社会・経済情勢が変化したことで、集約型のまちづくりへの転換が求められています。
- そこで、20年後を見据えた改訂を行います。



# 都市計画マスタープランの改訂について

## ⇒ スケジュール

- 平成25年度から検討を進めている中で、今年度は市民の皆さんの意向を反映しながら、都市計画マスタープランの改訂素案の検討・作成を進めていきます。
- 併せて、市のホームページをはじめ、Facebook、ニュースレター、公共施設等にチラシを配布するなど、随時情報を発信していく予定です。



# まちの成り立ち (静岡市の“これまで”と“いま”)

## ⇒ 古代の静岡

- 静岡市域に人々の生活が始まったのは、今から1万7千年から1万年前ぐらいであったと言われています。

出典:わがまち静岡

## ⇒ 中世の静岡

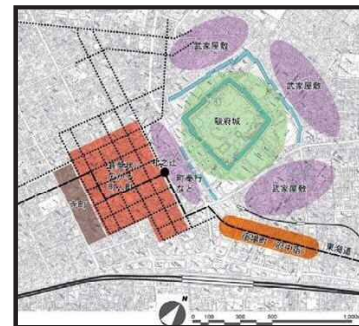
- 戦国時代、今川氏は駿府市街地の整備・領内の検地（田畑を測量・検査）・商業の保護育成・安倍金山の開発など新しい政策をつぎつぎと打ち出し、領国の支配を強めました。

出典:わがまち静岡

## ⇒ 近世の静岡

- 江戸時代、徳川家康在城時の駿府城下町は、城郭周辺部や城郭の北西側に武士の居住地が、城郭の南西側に商人・職人の居住地が設けられていたようです。また、町場の南西側の端には寺院が密集しており、城下町を防衛する役割を担っていたものと考えられています。
- また、商人・職人の住む地域は、町が作られた当初、職種によって住み分けられ、それぞれの町には職業の名前などが付けられました。現在でも「大工町」や「大鋸町」などの町名が残されており、家康によって造られた城下町の痕跡が残されています。なお、本町（現在の呉服町、七間町、両替町周辺）や、今宿（現在の人宿町周辺）といった町場は、今川の時代から商業の中心として栄えていました。
- このように家康によって整備された駿府城下町は、現在の静岡市街地の原型ともいえます。

出典:「静岡市の文化財」HP



出典:静岡市都心地区まちづくり戦略

江戸時代の都市構成



出典:静岡市都心地区まちづくり戦略

現在の土地利用

## ⇒ 近代の静岡

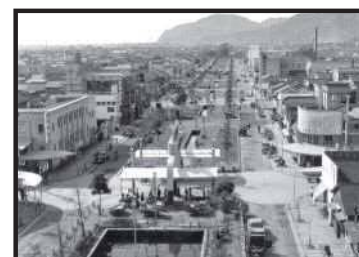
- 明治2年（1869）に静岡市が成立し、大正時代にかけて工業化・都市化にともなう水道や電灯などのインフラや鉄道・バスなどの交通網が整備されました。清水市は大正13年（1924）に成立しました。
- 昭和に入り、太平洋戦争は静岡市域にも甚大な被害をもたらしましたが、戦後、県と市が進めた火災に強い「不燃化共同ビル計画」のもと、人のにぎわいの絶えないまちとして全国的に注目されるまちに生まれ変わりました。
- そして、平成15年に清水市、平成18年に蒲原町、平成20年に由比町が編入し、現在の静岡市になりました。

出典:「静岡市の文化財」HP



出典:静岡市制80周年記念写真集

くらしゅう  
空襲によって  
焦土と化した  
静岡市の中心部



出典:静岡市文化財協会蔵

青葉通りと周辺の  
整備された風景

# まちの成り立ち (静岡市の“これまで”と“いま”)

⇒ JR 静岡駅周辺

「これまで 1948年 (昭和23年)」



63年後

出典:国土交通省「地図・空中写真閲覧サービス」

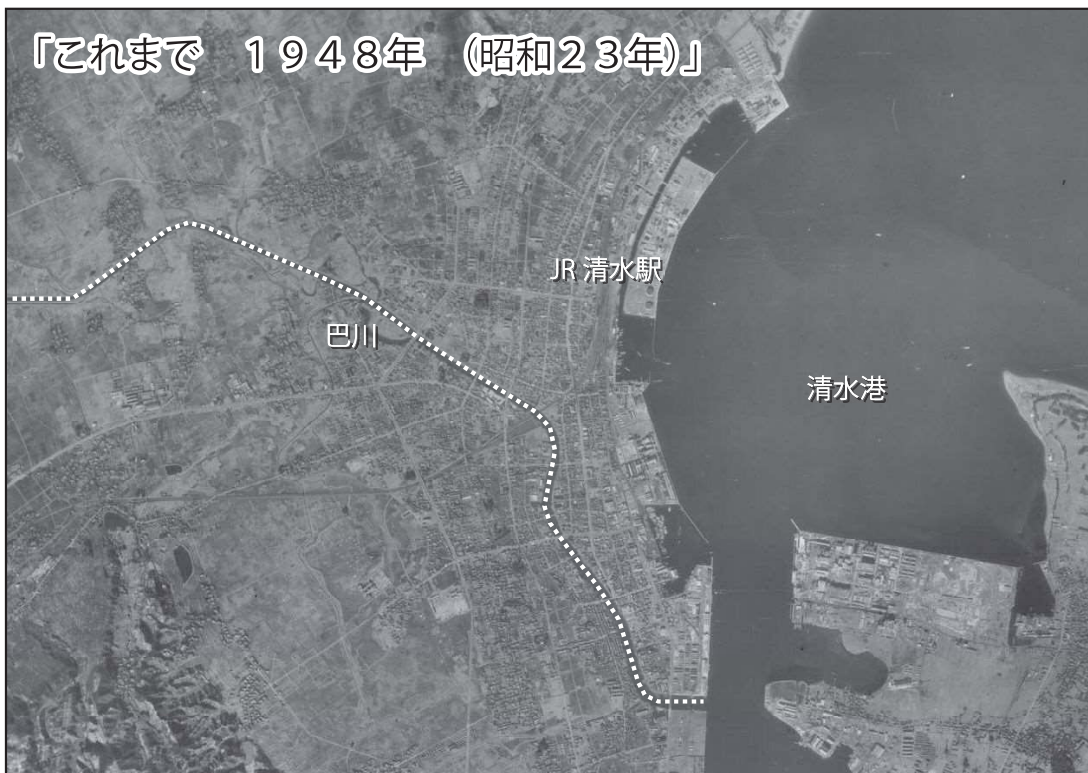
「いま 2011年 (平成23年)」



# まちの成り立ち (静岡市の“これまで”と“いま”)

⇒ JR清水駅周辺

「これまで 1948年 (昭和23年)」



63年後

出典:国土交通省「地図・空中写真閲覧サービス」

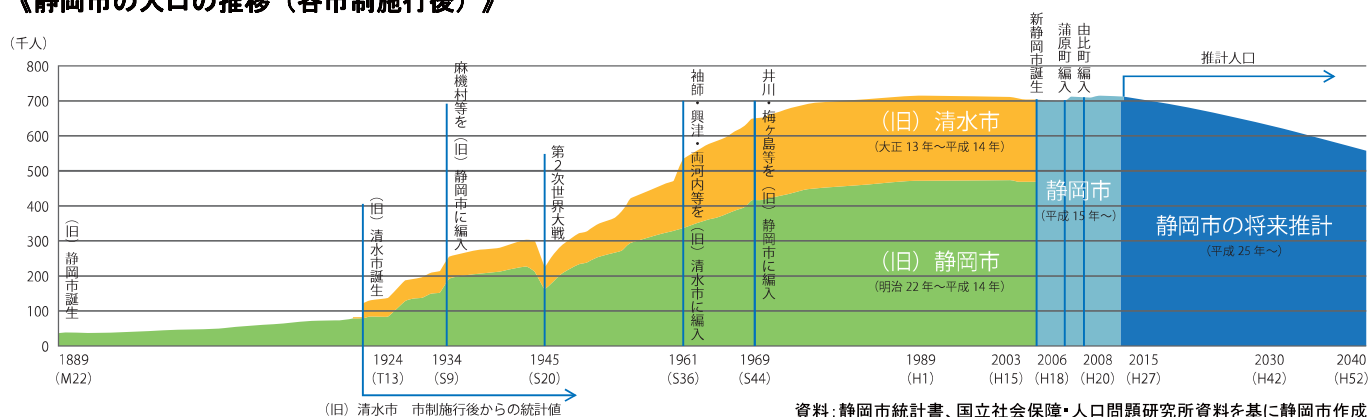
「いま 2011年 (平成23年)」



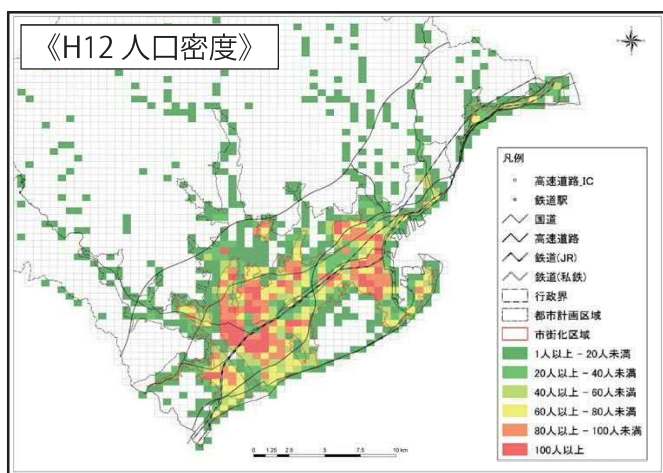
# データでみる、静岡の“いま”と“これから”

## ⇒ 人口

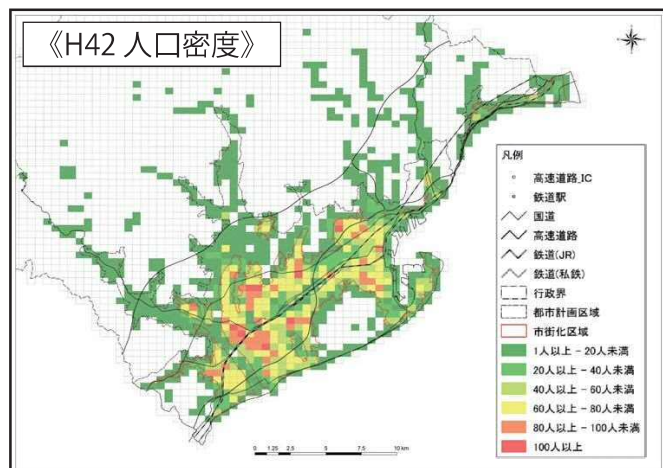
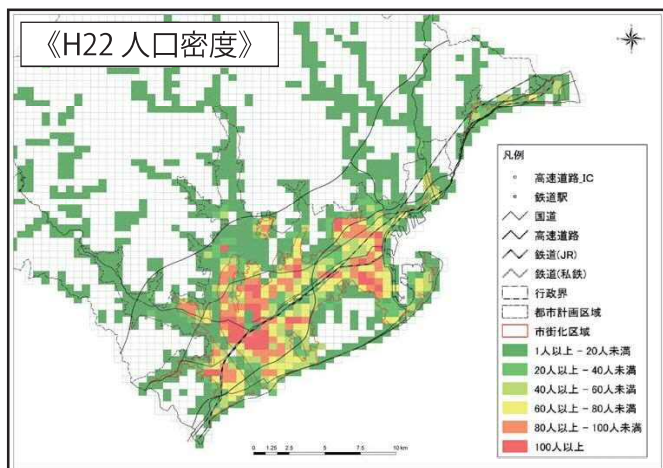
### 《静岡市の人口の推移（各市制施行後）》



### 《人口密度の推移》



- 静岡の人口は平成2年を境に減少傾向にあり、今後も減少していくことが予測されています。
- それに伴い、平成42年の人口密度が100人/haを超えるエリアは、静岡地区の中心市街地周辺となり、清水地区市街地や郊外部での人口密度の低下が顕著となる見込みとなっています。
- 今後、学校、公営住宅など公共施設だけではなく道路などの維持が困難になるため、一定程度の人口密度の集積が求められます。

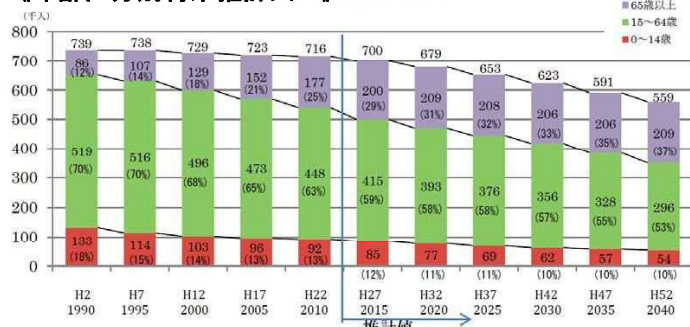


# データでみる、静岡の“いま”と“これから”

## ⇒ 少子高齢化

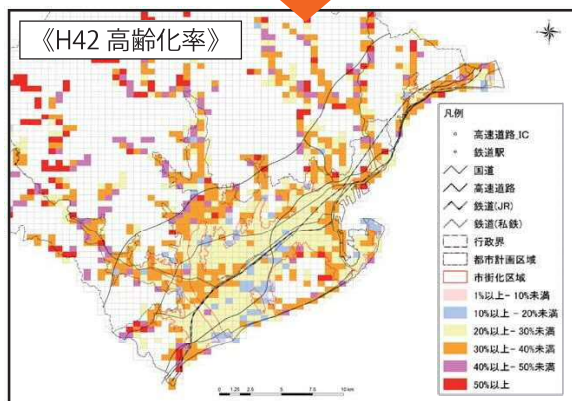
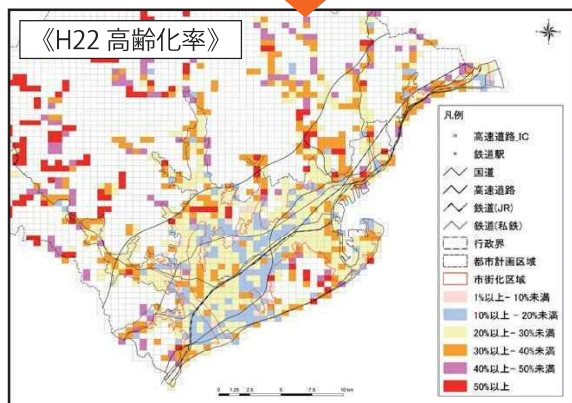
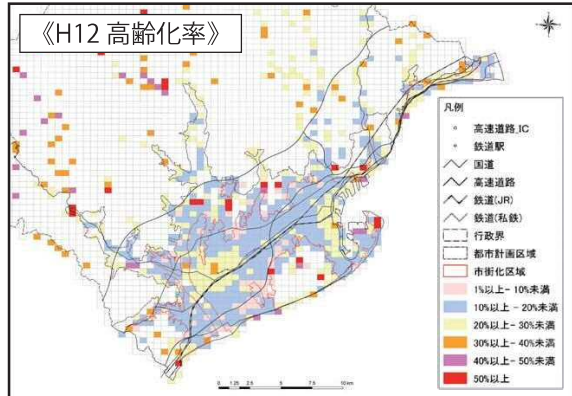
○平成42年には65歳以上が33パーセントで3人に1人の割合になります。

《年齢区別将来推計人口》



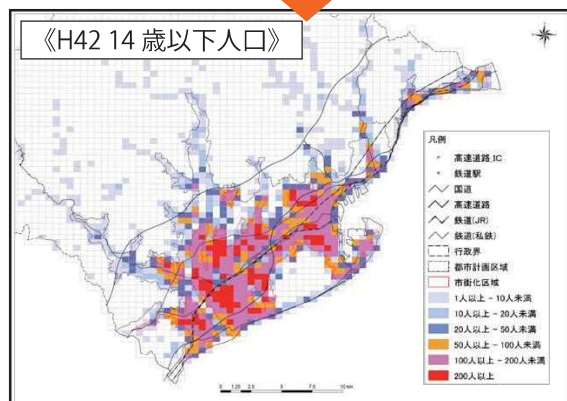
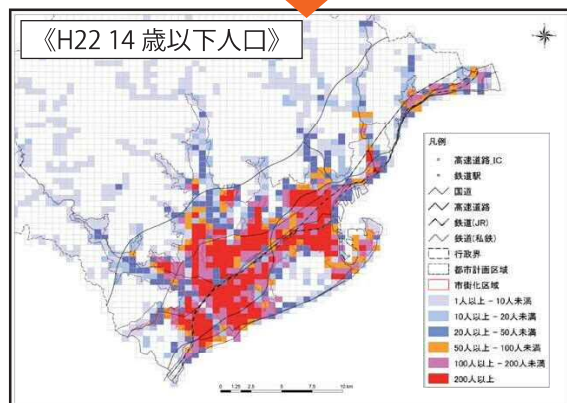
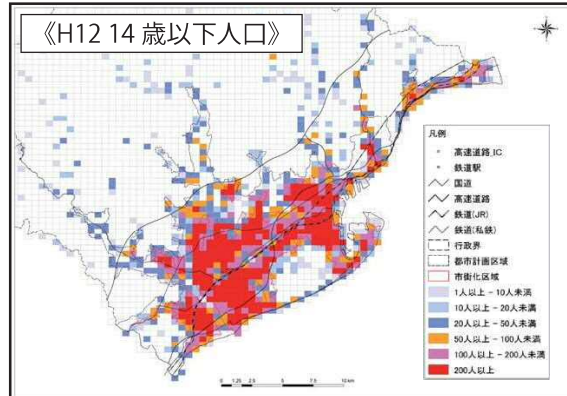
出典：国立社会保障・人口問題研究所資料を基に静岡市作成

《高齢化（65歳以上）率の推移》



出典：国勢調査（H12・H22）地域メッシュ統計 ※H42は推計

《14歳以下人口の推移》

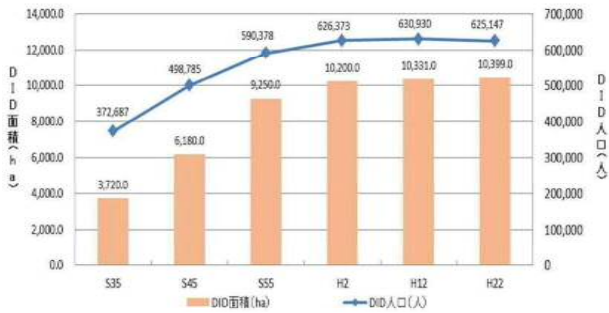


出典：国勢調査（H12・H22）地域メッシュ統計 ※H42は推計

# データでみる、静岡の“いま”と“これから”

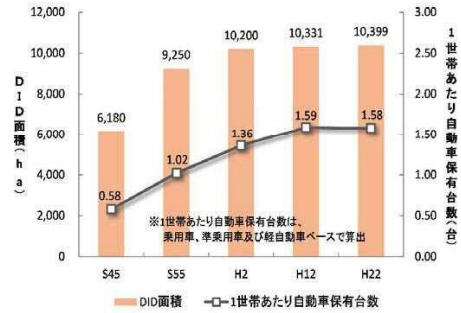
## ⇒ 市街地の拡散・低密度化

《DID面積及びDID人口の推移》



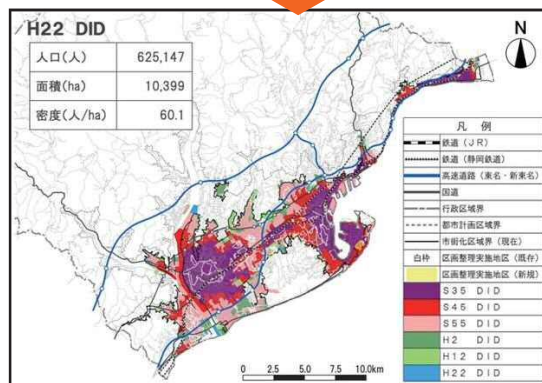
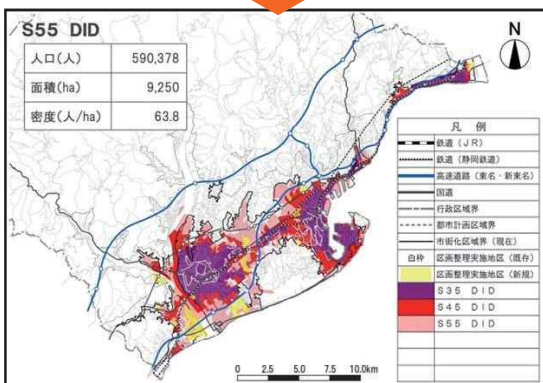
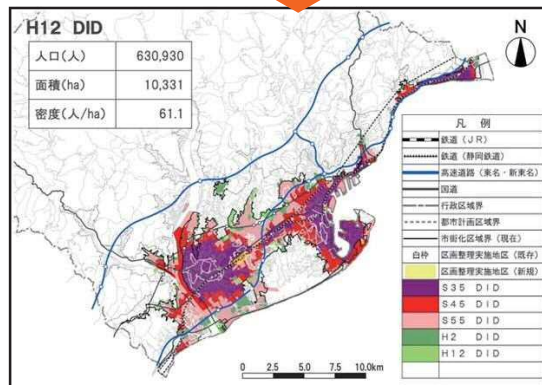
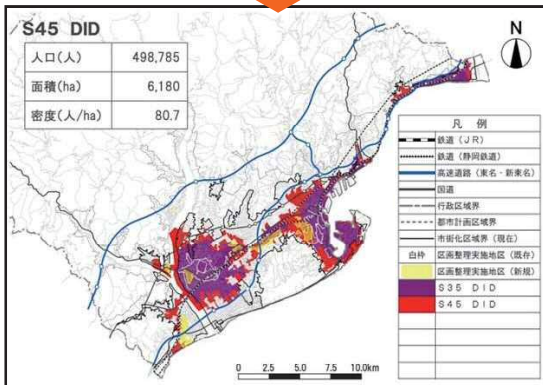
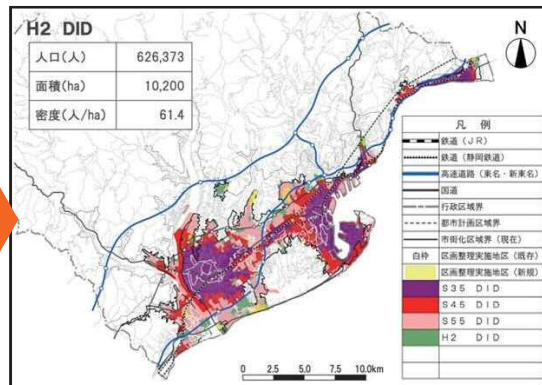
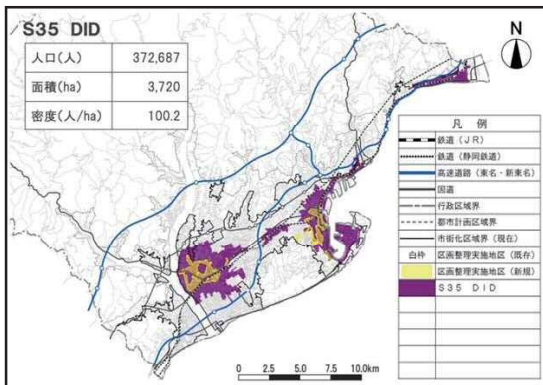
出典：国勢調査

《DID面積及び1世帯あたり自動車保有台数の推移》



出典：静岡県自動車保有台数調査

《DID区域の推移》



出典：国勢調査

○郊外に向けて住宅供給の開発等が数多く実施され、市街地が広がった結果、人口密度は低下しており、自動車に依存した薄く広がった低密度な市街地が形成されています。

※DIDとは、人口集中地区のこと。(①原則として人口密度が4,000人/km<sup>2</sup>以上の基本単位区等が市区町村の境域内で互いに隣接して、②それらの隣接した地域の人口が国勢調査時に5,000人以上を有するこの地域)

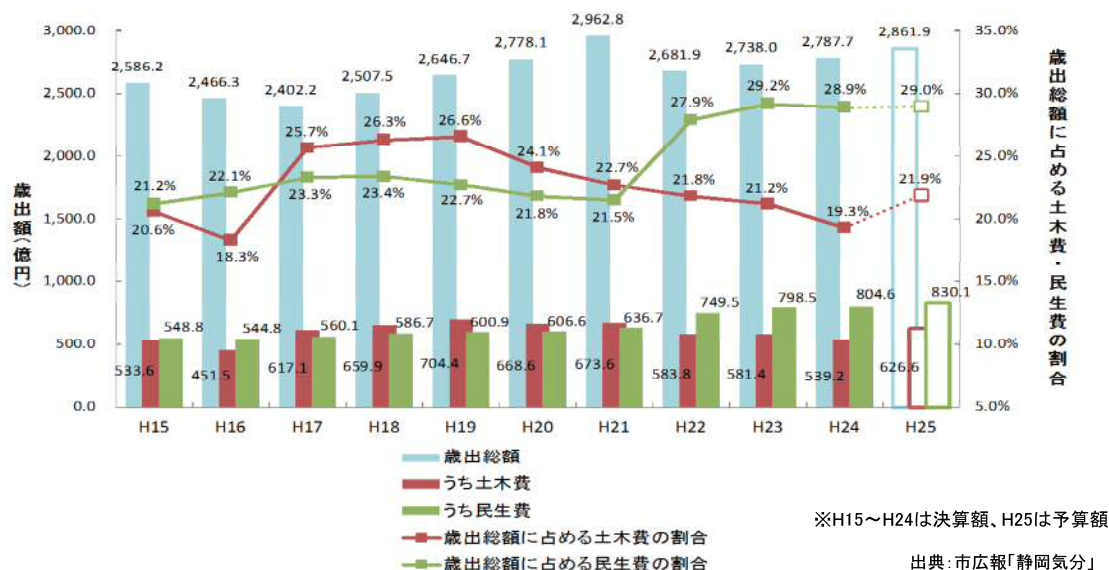


# データでみる、静岡の“いま”と“これから”

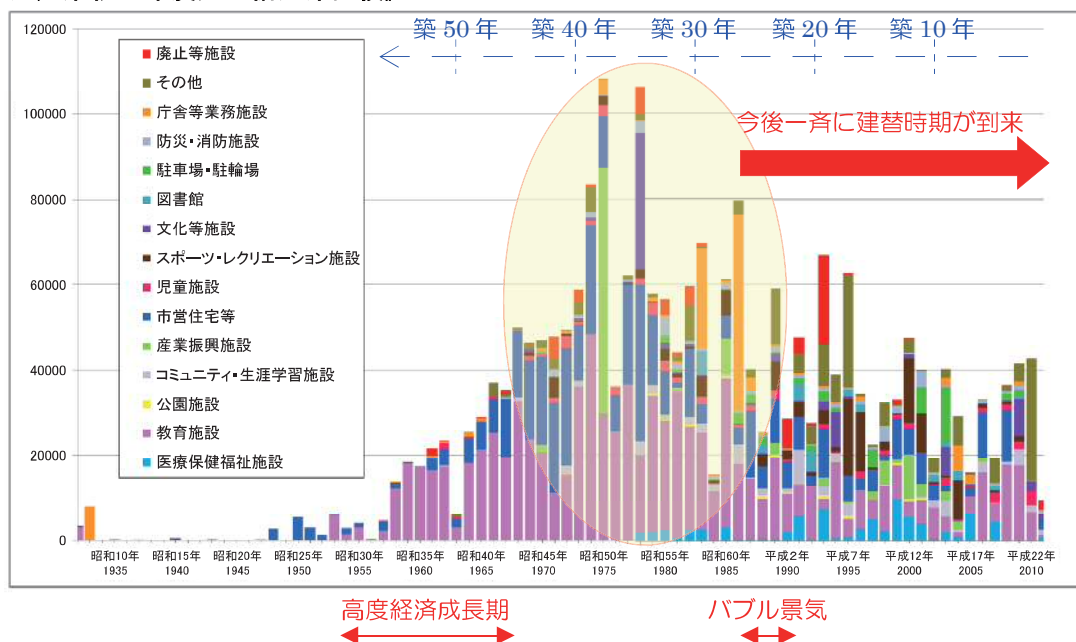
## ⇒ 都市経営

- 高度経済成長期に整備された公共施設等は、今後一斉に更新時期を迎え、その維持管理・更新費はこれまでの平均維持更新費を上回る見込みとなっています。
- 市の財政が縮小するなか、行政コストを抑制するため、都市機能の適切な集約・連携や、公共施設等の計画的・効率的な維持管理・更新を行うため、適切な人口密度の配置の誘導を行うことが求められます。

### 《静岡市における歳出額・歳出割合の推移》



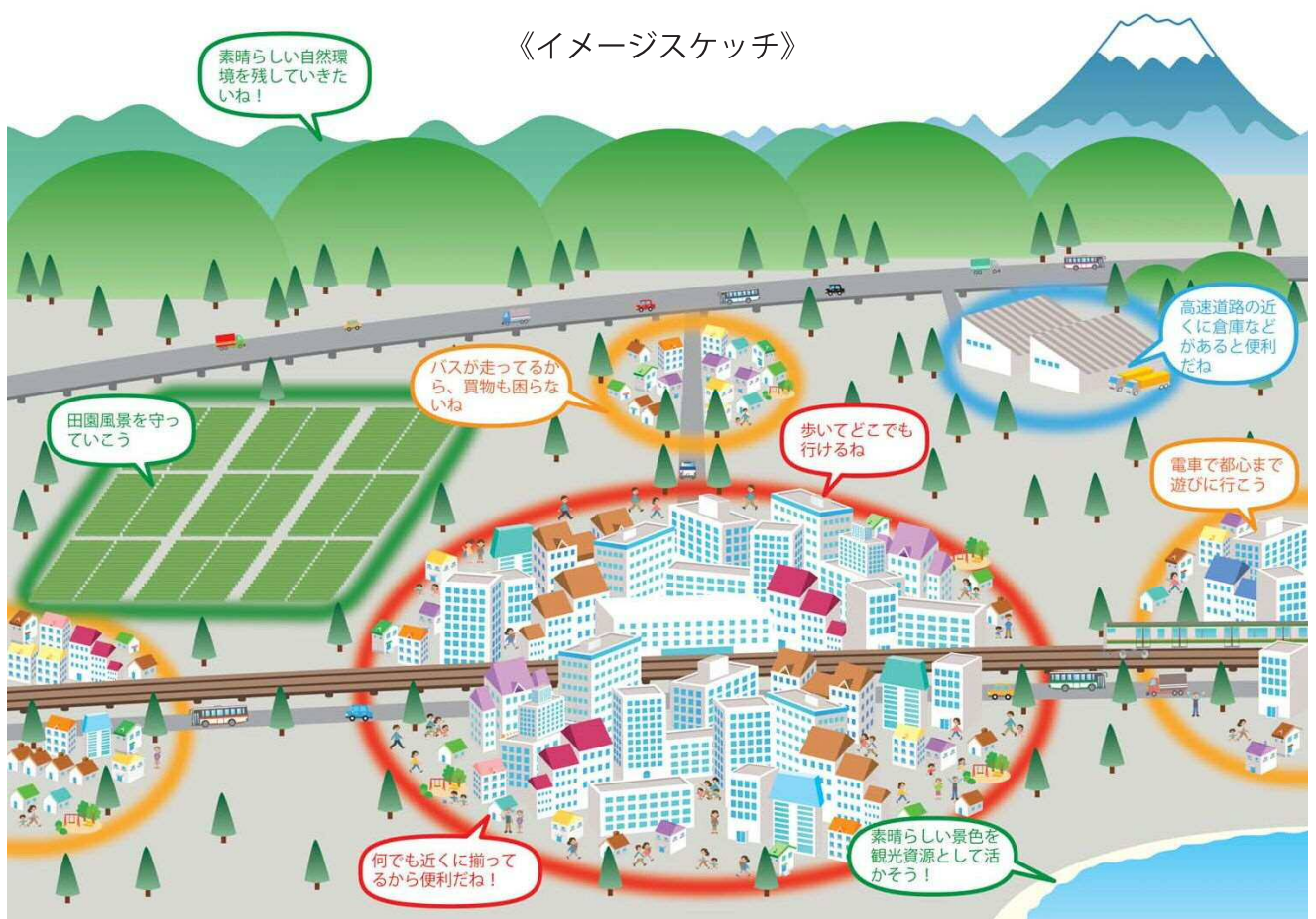
### 《公共建築物の年度別整備延床面積》



# 静岡市が目指す都市構造

## ⇒ 都市構造

- 本市の人口は平成2年をピークに減少しており、今後、都市基盤の整備費や維持管理費といった都市経営コストや環境負荷を抑える効率的な都市構造の構築を進める必要があります。
- そこで、市では集約連携型都市構造への転換、郊外部の戦略的活用を推進しようと考えています。



### 集約連携型都市構造

市民生活に必要な都市機能を、都市や地域の中心となる鉄道駅周辺や交通利便性が高い地区に集約することで拠点を形成し、それらを公共交通でつなぐことで、自動車に過度に依存しない都市構造を形成

### 郊外部の戦略的活用

集約された市街地の外側の、観光・交流地（日本平・三保半島など）、産業集積のポテンシャルが高い地域では、地域を活性化させる場として賢く活用

# 市民意向調査

## ⇒ 調査概要

まちづくりに対する市民の皆さんの意向を把握するために、アンケートを実施しました！

### (1) 主旨・目的

- ①現在のまちづくりの満足度、今後重要な取組の評価
- ②市が目指す将来像に対する市民意向の把握
- ③地域別の将来像に対する市民意向の把握
- ④まちづくりへの市民参加意欲の把握

### (2) 実施概要

標本数：4,500人（住民基本台帳より18歳以上の方を単純無作為抽出法により抽出）  
実施期間：平成26年8月1日～8月10日

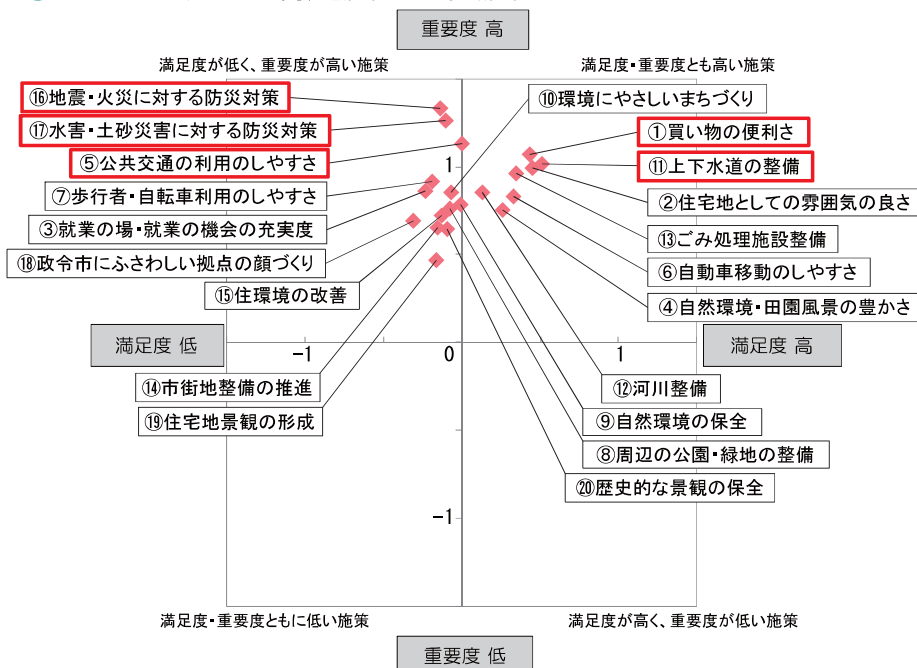
### (3) 設問

属性	問1	性別	問2	年代	問3	地区
	問4	居住年数	問5	家族構成		
① 満足度・重要度	問6	市内のまちづくりの満足度、今後の重要度				
② 市が目指す将来像	問7	集約連携型都市構造等の考え方を理解できたか				
	問8	将来的に静岡市で集約連携型都市構造等の考え方が必要だと思うか				
③ 地区の将来像	問9	お住まいの地区が将来的にどのような地区になってほしいか				
④ 市民参加	問10	どのようなまちづくりに参加してみたいか				
	問11	市民・行政協働のまちづくりを進めるため、必要なこと				
⑤ 今回の改訂	問12	今回の都市計画マスタープランの改訂で重要視してほしいこと				

(4) 回収数 1,706人（回収率37.9%）

## ⇒ 結果

### ① まちづくりの満足度と重要度



市のまちづくりの取組の中で、満足度が低く、重要度が高い施策は、地震や水害等への防災対策となっています。

買物の便利さや上下水道整備など、日常生活をするうえで重要なものは満足度が高くなっています。

※満足度においては、不満（-2点）、やや不満（-1点）、普通（0点）、やや満足（+1点）、満足（+2点）で採点。  
※重要度においては、重要でない（-2点）、あまり重要でない（-1点）、普通（0点）、やや重要（+1点）、重要（+2点）で採点。

# 市民意向調査

## ⇒ 結果

### ② 市が目指す将来像の理解度と必要性



#### ＜静岡市が目指す都市構造＞

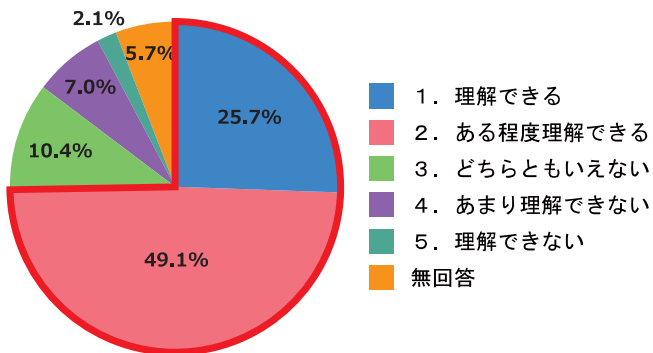
##### 集約連携型都市構造

市民生活に必要な都市機能を、都市や地域の中心となる鉄道駅周辺や交通利便性が高い地区に集約することで拠点を形成し、それらを公共交通でつなぐことで、自動車に過度に依存しない都市構造を形成

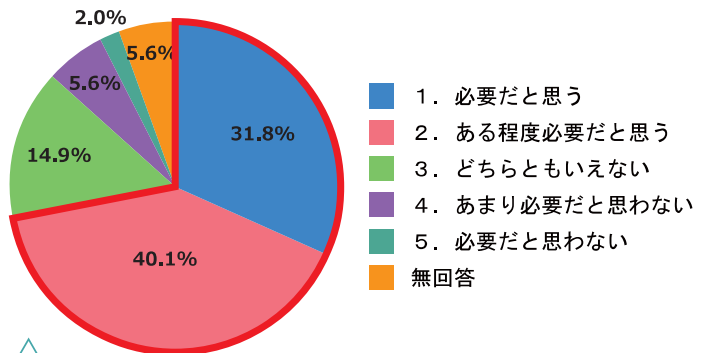
##### 郊外部の戦略的活用

集約された市街地の外側の、観光・交流地（日本平・三保半島など）、産業集積のポテンシャルが高い地域では、地域を活性化させる場として賢く活用

上記の考え方が理解できますか？

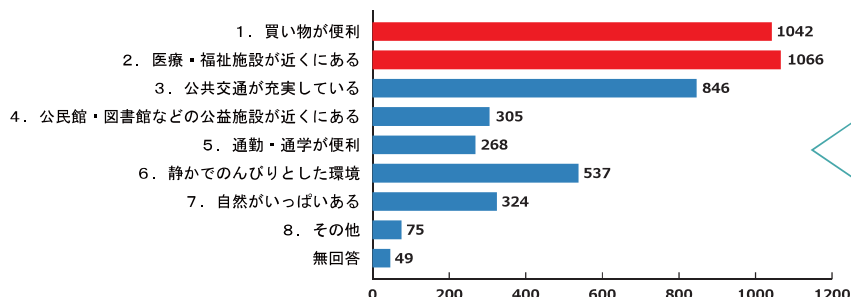


上記の考え方が必要だと思いますか？



約7割が、理解できる（ある程度理解できる）と回答しており、上記の考え方が必要（ある程度必要）と回答しています。

### ③ 将来のまちに望むこと



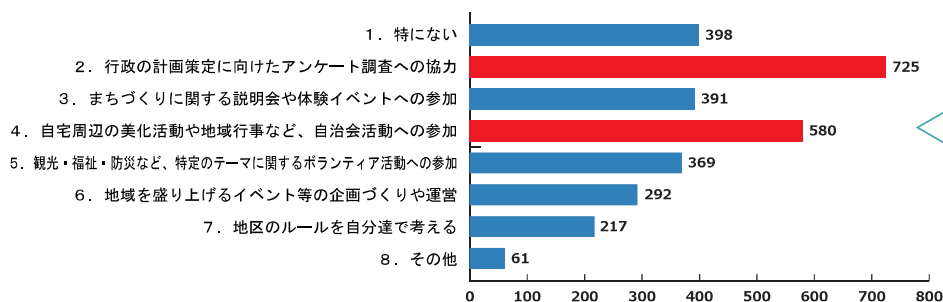
将来自分が住む地区には、「医療・福祉施設が近くにある」ことや「買い物便利」といったことが望まれています。

# 市民意向調査

## ⇒ 結果

### ④ まちづくりに対する市民参加

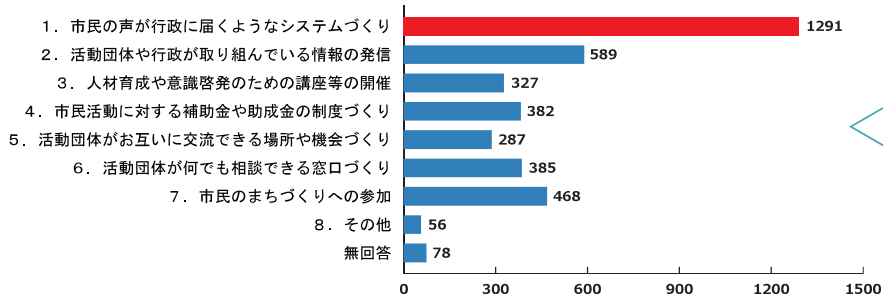
どのようなまちづくりに参加してみたいですか？



まちづくりへの参加方法として、アンケート調査への協力や自治会活動への参加意向が高くなっています。

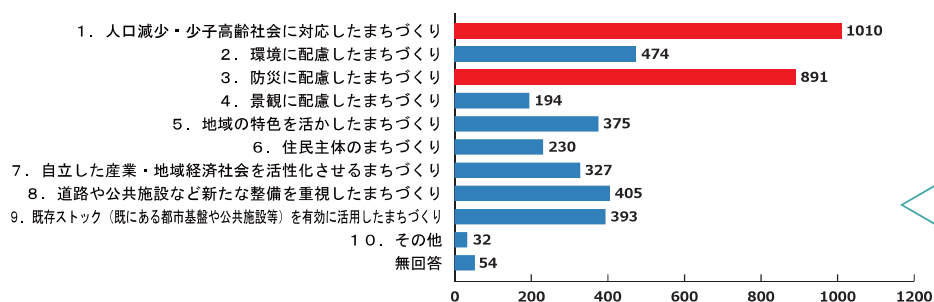
市民・行政協働のまちづくりを進めるため、

必要なことは何だと思いませんか？



協働のまちづくりを進めるためには、市民の声が行政に届くようなシステムづくりが求められています。

### ⑤ 都市計画マスタープランの改訂で重要視すべきこと



今後、都市計画マスタープランの改訂にあたっては、「人口減少や少子高齢社会へ対応したまちづくり」や、「防災に配慮したまちづくり」が重要視すべきこととなっています。

# シンポジウム

## ⇒ 結果

10年後、20年後を見据えて、どのようなまちを目指すべきかを考えるきっかけの場として、シンポジウムを開催しました！

### (1) 開催概要

日時：10月4日（土）13：30～16：00

場所：静岡インザライフ5階イベントホール

プログラム：

基調講演

『しずおかの魅力を活かした都市計画』

久保田 尚氏（埼玉大学大学院 理工学研究科 教授）

パネルディスカッション

『どうする？これからの静岡』

～次の世代へつなげる・つながるまちを目指して～』

参加者：131名

【コーディネーター】

柳沢 厚氏（C-まち計画室代表 静岡市都市計画審議委員）

【パネリスト】

久保田 尚氏（埼玉大学大学院 理工学研究科 教授）

森 理世氏（静岡市観光親善大使）

松村 麻子氏（「womo」元編集長）

松浦 和彦氏（静岡市都市局長）

【司会】

平山 佐知子氏（フリーアナウンサー）

### (2) 基調講演概要

- 静岡市では、人口密度の低下や少子高齢化、空き家の増加などの問題を抱えています。
- これらの問題に対応するため、今後は交通利便性の高いエリアに拠点を定め、商業施設や医療施設を集約することで、行政コストの削減が見込まれるとともに、歩いて暮らせる小さいまちづくり（コンパクトシティ）の実現が求められています。
- また、このようなまちづくりを進めるにあたり、静岡市に暮らす市民の皆さんの声を反映させることがとても重要になります。

### (3) パネルディスカッション概要

森氏：海外での経験から、外から来た人も市民もどちらも楽しめる魅力づくりが必要だと感じています。そのためには、「静岡」をブランド化して、価値を高めることが大事だと思います。また、高齢者用の施設で若者が働きやすいように行政が支援する必要があると思います。

松村氏：帰ってくるとホッとする環境が静岡の魅力だと感じています。また、地域の魅力には、お金をかけなくても、知恵とアイデアで生まれるものがあります（東北の地吹雪体験ツアー等）。また、仕事と育児をする中で、「ファミリー・サポート・センター」（子育て支援サービス）を通じて、シニア世代の方にお世話になっています。その他、小さい街づくり（コンパクトシティ）を進めるにあたり、実証実験から行っていくのはとても良いと思います。

松浦氏：街は長い年月をかけてできると実感しています。



# まちづくりカフェ (意見交換会)

## ⇒ 結果

「静岡市の魅力って何だろう？」というテーマのもと、楽しく話しながら将来住みたいまちについて意見を出し合う場として、まちづくりカフェを開催しました！

### (1) 開催概要

日時：10月16日(木)

19:00～21:00

場所：MIRAIE リアン1階

プログラム：

#### ①オリエンテーション

- ・本日の開催の目的
- ・都市計画マスタープランについて

#### ②意見交換

- ・意見交換会の進め方
- ・市の魅力・強みって何？
- ・魅力・強みを活かすために、何をすれば良いだろう？

参加者：26名(6グループ)



### (2) 意見交換結果概要

- 静岡市の魅力について、「地元愛」、「若者(大学生)に活気がある」、「山間地!オクシズ!」などの意見が出されました。
- また、魅力や強みを活かすためには「自転車をもっと利用していくべき」、「静岡市のPRをもっと」、「コンセプトをもった都市計画を」などの意見が出されました。
- 終了後のアンケートでは、「参加して良かった」や「まちづくりへの興味が湧いた・増した」という声が多く見られました。

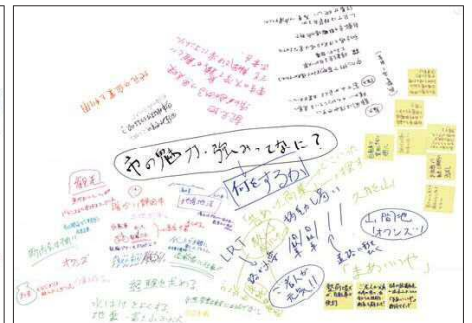
A グループ



B グループ



C グループ



D グループ



E グループ



F グループ

